



# 丹波婦木農場の取組

兵庫県丹波市の婦木農場では、「今、農村はおもしろい！」をスローガンに、農家の営みを体感できる場所「農家体感施設〇(まる)」の運営や、農場を自由にみてまわれる「オープンファームデー」の開催など、消費者との交流活動を行っています。

## 江戸時代から丹波の地で

婦木農場は、兵庫県中東部の丹波の地で江戸時代から300年続く農家です。水稲7ha、野菜1.5ha、豆類0.8ha、小麦0.3haのほか、養鶏や酪農など、年間120種を超える作物や加工品を生産しています。

少子高齢化が叫ばれる中、10代目の克則さんは、持続可能な農業経営のためには、都市住民など消費者に、農家の営みを知ってもらうことが重要だと感じていました。



## 会いにいける農場、開かれた農場



↑ 農家体感施設〇(まる)

会いに行ける農場、開かれた農場を目指して、婦木農場では消費者との様々な交流活動を行っています。

「農家体感施設〇(まる)」では、農作業や自家野菜の調理など、農村の生活を24時間体験できるほか、「オープンファームデー」では、来場者が農場を自由に散策したり生産者と話したりすることができます。また、農家カフェや直売所の運営、調理体験イベントなども行っています。

## 農業農村の魅力を伝え続ける

「実際に農業の現場を見て、生産者と話す。そして農業のファンになる。交流は、農業の支え手づくりにつながるんです」。交流活動を通じて感じたことを尋ねると、克則さんはそう答えます。

「今、農村はおもしろい！」。農業農村の魅力を伝え続ける、婦木農場の挑戦は続きます。



↑ 朝6時から農作業がはじまることも



↑ 晩ご飯は婦木さん一家と食卓を囲みます